

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成19年度 第13回
開催日時	平成19年12月12日（水曜日） 午後7時から9時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎 1階102会議室
出席者	委員：青木委員、赤石委員、池田委員、虎頭委員、西山委員、蚊野委員、高木委員、角田委員、北條委員、渡辺委員、 欠席：荒井委員、富田委員、中村委員 事務局：三芳課長、岩田係長、インテージ2名
議題	1 第12回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認 2 男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査結果（案）について 3 男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査概要版（案）について 4 その他
会議資料の名称	資料No.1 第11回西東京市男女平等参画推進委員会会議録（案） 資料No.2 「男女平等参画に関する西東京市民意識実態調査報告書」（案） 資料No.3 「男女平等参画に関する西東京市民意識実態調査報告書 概要版」（案） 資料No.4 西東京市住吉会館条例
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
開会	<p>委員長： 第13回の委員会をはじめ。まず、事務局から報告をお願いする。</p> <p>事務局： 西東京市住吉会館条例が文教厚生委員会で採択され、議決される運びになった。この中に女性センター（正式名称は男女平等推進センター）がある。議会で、「センターになると今までとどう変わるのか」という質問があり、「今までサービスの提供が主だったが、今後は行政側の情報発信だけでなく、地域の活動拠点として色々な団体に運動を担ってもらえるような運用を考えなければいけないのではないか」という趣旨の答弁をした。人事配置についても、活動の目標に堪えるように求めていきたい。</p>

委員：
住吉会館の総合的な愛称は決まったのか。

事務局：
「ルピナス」に決まった。

1 第12回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認

委員長：
それでは議題に入る。前回の会議録について意見・質問はあるか。

2 男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査結果（案）について

委員長：
ないようなので、承認された。では、市民意識調査の報告書の最終確認に移る。
意見・質問があればお願いします。

委員：
回答者属性の部分についてだが、前回の報告書には「婚姻の有無」や「共働きの状況」にも性・年代別のグラフがあった。このままでは大雑把ではないか。

委員長：
今回はシンプルにまとめてあるが、あえて入れたほうがよいか。

委員：
回答者の性質として重要なので、作業的に問題なければ入れてほしい。

委員長：
作業的に問題はないか。

事務局：
ページ数が増えるが100ページ以内に収めたい。各章の扉の紙をいれなければ可能である。

委員長：
では、追加していただく。

委員：
（3ページ）「ご存知ですが」から「知っています」に。
（10ページ）「6割弱」から「6割強」に。
（15ページ）「6割」から「約6割」に。
（18ページ）「3割弱」から別の言葉で。
（50ページ以降）文章が男性視点なように思うが、これでよいのか。
例えば50ページでは、男性で「一人一人の個性の差が大きいので男女で異なる扱いをするのはおかしい」という考え方が多いのは50歳代。男女共同参画についてマイナスの

面に注目するか、プラスの面に注目するか。文章として間違っているわけではないが、とりあげ方をどうするか。

(53ページ)むしろ「暴力を振るうのはよくない」という考え方が男女とも圧倒的であることを説明したほうがよいのではないか。

委員長：

50ページの表現について、ここでは何を言うべきか意見を。

事務局：

特に男性視点を意識したわけではなく、表に をつけている項目について文章にした。

委員：

統計的に はつかなくとも、20歳代女性と50歳代男性で「Bに近い」・「どちらかといえばBに近い」が多いことのほうが特徴的だと思う。

委員長：

グラフをどう読み取るか、というのは1つのテーマ。必ずしも2方に分かれていないので難しい。例えば、女性だけ、男性だけをみても年代別に特徴がでている。

委員：

女性は「Aに近い」という回答は年代があがるほど高い。逆に男性は20歳代が最も多くて下がっている。

委員：

男女平等への反感みたいなものがあり、温度差があるのではないか。

委員：

勝手な解釈だが、男性は若いうちは「男のほうが」という意識が強くて社会にもまれるうちにどうもそうじゃないと思うようになるのではないか。

委員：

30歳代女性で「Aに近い」が多いのは、この年代がM字型曲線の底にあたっていて性別役割分業を実際にやっている人が多いため、現状肯定の意識があるという推論もできる。20歳代、30歳代の男性は男女雇用均等法などの流れの中で反発がでるのかもしれない。

委員：

同年代の男女をみても違いがある場合がある。20歳代は、男性は「Aに近い」が多いが女性は少ない。たぶん結婚に関するミスマッチにつながっているのではないか。

したがって、委員長の発言にもあったが、こういう傾向がでている、という書き方にしたほうがよい。

委員長：
53ページについて意見をどうぞ。

委員：
ここも、「どちらかというともAに近い」のような暴力を許容するような意見は男女差が大きいことを指摘しておく必要がある。

委員長：
グレーゾーンが男性の言い訳になっている。暴力は絶対いけないとは言い切らない。

委員：
「Bに近い」については、トータルでみても年代別にみても男女で20%近い差がある。だから、その点を指摘したほうがよい。

委員長：
では、男女差と「どちらかといえばBに近い」についてのコメントを入れていただく。

委員：
52ページの「やや」の位置が不自然。他にもある。

委員：
18ページで「割」という表現について、同じページで「71.2%」と言い切っている箇所もあるが整合はしなくてよいのか。

委員長：
それは前回は議論になったところで、メインは「割」で参考としてパーセント表示を付記することになった。

事務局：
8ページのM字型のグラフについて西東京市以外の傾向を知らない人が読んでもわかるように、参考として白書にでていたグラフを載せるとわかりやすいのではないかと思う。

事務局：
数字も合わせて表示するのは難しい。
おおよその傾向がわかればよい。

3 男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査概要版（案）について

委員長：
では、報告書の案については以上とする。次に概要版について意見があれば。

委員：
(5ページ)コメントでは「女性の昇進・昇格が男性より遅いこと」などの項目が特

記されているが、グラフの中のその項目に丸印をつけるなどしたほうが親切ではないか。

委員：

(4ページ)コメントでは『職場にそのような制度がないから』が「男女とも高く」となっているが、女性では『正規社員ではないから』が最も高いのではないか。

事務局：

トータルの数字ではそれが最も大きい。表現が不適切であった。

委員：

グラフを工夫すればよいのではないか。

委員：

このグラフは男女の違いがはっきりしていて面白い。報告書本編(12ページ)もこの形に直したほうが良いのではないか。

事務局：

グラフに数字を入れるのが難しい。また、文章も変更せざるを得ない。

委員長：

本編の12ページについては文章は変えずにグラフを3本にする。

委員：

文章は概要版の文章をベースにしたほうがよい。表に を追加して、その項目についてコメントすべき。

事務局：

文章の変更については了解した。ただ、表の については機械的につけており、統計的な意味があるので追加できない。

委員：

表の読み方は説明があるのか。

事務局：

ある。

委員：

概要版ではグラフの大きさがまちまちである。なるべく揃えたほうがよい。

委員：

女性センターがオープンするので、表紙や裏表紙に女性センターの写真とか現在の施策の体系図などを入れてPRしたらどうか。

委員長：

16ページの枠内に入れる（写真はいれない）ということをお願いします。

事務局：

表紙の「女性と男性がいきいきと暮らせるために」はこれでよいか。

委員：

計画からとった言葉だったか。

事務局：

アンケートの調査票に入れていたフレーズ。

委員長：

表紙はこのままで。（「資料」から「報告書」に語句は修正する）

報告書、概要版については以上、よろしくお願いします。

次回から計画の見直し作業に入るが、この市民意識調査と実績評価の作業や結果を総括して計画につなげていきたい。今の調査報告書の中で、計画につなげていきたい視点があれば発言してほしい。

委員：

社会通念というか固定観念は制度上の問題ではないのでなかなか直らない。固定観念はいろいろなところに影響している。社会全体が変わっていかないとなかなか男女平等の流れにはならない。そうすると教育がとても重要になる。男女平等を教育の場でどのように実践していくか、どのような働きかけができるか、掘り起こしていきたい。

委員長：

学校をでた直後の若い世代である20歳代が男女でかなり意識が違うということは、学校教育でどうしていくかという根本的な問題になるが、次回にもう少し進めたい。

委員：

男女が平等になることは男性が不幸になることだという意識が漂っているが、それは違う。男女ともに自立して生きられると重苦しくない世の中が作れるのではないか。

委員：

西東京市が男女平等に対してどのように取り組んでいるのかわからない、という面がある。

委員：

アンケートに「特に力を入れてほしい項目は」という設問があったが、最も高い回答が高齢者や障害者の介護であった。介護される人についてはあったが、介護する人の支援・ケアが切実になっている。

また、「男の生きにくさ」も高い結果がでている。男性相談なども必要ではないか。

いまはあるのか。

事務局：
今はない。

委員：
保育や介護制度の充実を望む声強いが、予算や国の制度に縛られて市で特筆できる施策がなかなかない。

委員：
計画の中に施策に対して提言をしていくという項目もあった。望むべきことは書いておいていいのではないか。

4 その他

委員長：
次回は実績評価と意識調査の結果から提言をいただきながらグループワークを進めたい。グループは実績評価のグループと同じでよいか。では、各自、担当した柱について計画を再度見ていただきグループワークとする。
今日の会議は以上でよいか。

事務局：
総合計画で実施した市民意識調査結果についても次回簡単に説明する。
次回は1月9日（水曜日）に開催する。